

# みみタロウ

にほんごばん ☆ 126号 2018年1月

しがけんこくさいきょうかいぼらんていあぐるーぶ「みみタロウ」  
おおつし はま びあざおうみ  
大津市におの浜 1-1-20 ピアザ淡海 2F  
Tel/Fax : 077-523-5646  
E-mail : mimitaro@s-i-a.or.jp  
URL : http://www.s-i-a.or.jp  
f : https://www.facebook.com/siabiwako

## 先生になりました！

こんかい たろう ながはまし しょうがっこう せんせい ごや こ はなし うかが  
今回みみタロウは、長浜市の小学校で先生をされている呉屋とよ子さんにお話を伺いました。



わたし べるー かぞく らいにち  
ながはまし ない しょうがっこう よねん てんにゆう  
私がペルーから家族と来日し、  
長浜市内の小学校4年に転入したの  
は20年前のこと。当時は、まだ外国籍  
の子どもが少なく、学校では皆が言葉  
のわからない私をどう扱えばいいの

かわからずに戸惑っている様子で、とても心細かったことを  
おぼ 覚えていて。その後日本語教室が開設されると、そこは同  
じ立場の子どもばかりで居心地よい場所となりました。だから  
いちねんほど た たんにん せんせい くらす べんきょう い  
一年程経って、担任の先生からクラスで勉強するよういわれ  
たときには、うまく溶け込めるのか不安になりました。そんな私  
に先生は「みんながいるから大丈夫。困ってることは何？」と  
き 聞いてくれ、そしてその一言をきっかけに、日本人の友達も  
いろいろ ききう わたし まわ うご はじ  
でき、色々なことが急に私の周りでうまく動き始めました。

ところがその歯車も、中学に入るとうまく回らなくなります。  
ていねい おし しょうがっこう かって ちが せんせいがた  
丁寧に教えてくれていた小学校とは勝手が違い、先生方が  
こくばん せつめい ことぼり かりかい わたしじしん  
黒板で説明する言葉が理解できなくなったのです。私自身  
も「わからないけどいいや」と投げやりになっただけでなく、  
こころ かべ つく にほんじん ともだち  
心の壁も作ってしまい、日本人の友達がいなくなってしま  
いました。そのため「もうここにいたくない」と思い詰めてしまい、  
ひとり べるー きこく おや こんがん がん  
一人でもペルーに帰国したいと親に懇願したのですが、頑  
として聞き入れてもらえませんでした。そんな葛藤の中で落ち  
こんでいたとき、また しょうがっこう にほんじん なかよし おな くらす  
込んでいた時、また小学校の日本人の仲よしと同じクラスに  
なりました。彼女に「高校は行かな。勉強は教えてあげるか  
ら。」と励まされて前向きな気持ちを取り戻し、無事進学。高校  
ではようやく勉強もみんなに追いつき、いろんなことが落ち着  
いて楽しい学生生活を送ることができました。

こうこうそつぎょうご あ まま しゅうしよく  
高校卒業後は当たり前のように就職するつもりでいたとこ  
ろ、ははおや だいがく い つよ い たんだい ほいくか すす  
ろ、母親から大学に行くよう強く言われ、短大の保育科に進  
むことにしました。そして保育士を目指していたのですが、  
ほいくえん きょういくじしゅう なか じぶん ちい こ せ わ おお  
保育園の教育実習の中で、自分が小さな子の世話より大き  
い子との会話が好きなことに気づかされることとなります。こ  
のため卒業後は保育園の先生にはならず、もう少し大きな子  
ども達のいる小学校で通訳になることにしました。その仕事  
の合間に子供達の勉強を見てあげることもあるのですが、そ

れがあまりに楽しかったので、先生になるのはとても無理と思  
い込んでいたところが奮起し、「よし、がんばって先生になる」  
と一大決心したのです。そして短大に戻って勉強を続け、  
先生の資格を取得。小学校で2年間、理科の非常勤講師を  
務めた後、クラスの担任教師となって今年2年目です。立ち  
ど 止まりそうになったり遠回りもしましたが、こうして大好きな  
しごと つ 仕事を就くことができたのは、先生や友達、そして親が勉強  
を続けるよう言うてくれたおかげです。子どもの頃は自分だ  
けが大変なように思っていたのですが、今思えば、外国で私た  
ちを育ててくれた親はどれだけ頑張ってくれたのだらうと  
かんしゃ きもち いっぱい  
感謝の気持ちで一杯です。

きょういく たずさ たちば た 立ってみると、日本の学校には様々  
なことを習得できるきめ細かなシステムがあることがわかりま  
す。そして私自身、そんな教育を受けられた事をラッキーだ  
ったと思っています。小さい時には、なんでこんなことしない  
といけないんだろうというようなことが沢山ありましたが、それ  
がいつの間にか自分の糧になっていたように思います。  
らいにちご の初マラソンでは泣きながらピリを走ったのですが、  
翌年には普通に走れるようになっていたのも体育の授業の  
おかげです。どの人も辛い時期があるし、特に外国籍の子  
ども達は、自分が周りと違うかもしれないと悩んだり、家と  
学校の文化の違いから一人で頑張らないといけないことも  
たくさんあるでしょう。わたし べんきょう もなかなかみんなに追いつけな  
いし、「なんでこんな中途半端な人生や」と思うことがよくあり  
ました。でもそこで勉強をやめていたら、今の自分はなかつ  
たと思うのです。そして今は、二つの文化のどちらも理解でき  
て良かったと思うことも段々増えてきました。小さい時は  
「いややな」「難しいな」「なんでや」と思っても、もう少し踏ん  
ば 張ればできることが増えて、必ず次につながっていきます。  
だから皆さんも、心を閉じずに受け入れる気持ちを持って日本  
の学校生活を楽しんでほしいと思っています。

いまくらす  
今クラスでは、みんなで毎日一個、スペイン語を覚えてい  
るんですよ。日本の子も外国の子も  
みんな仲良しの楽しいクラスになる  
よう頑張ります！

